

院長 コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

72

働き方・役割分担を考える



市民病院
院長 神谷里明

少子高齢社会を迎え、総人口が減少（昨年は約42万人の減少）が続いています。特に労働者人口の減少が危惧されています。今までの働き方では労働需要に対して供給が不足する場面が増えてきます。そのような状況の中で働き手を増やす方策として、高齢者、女性、外国人、ロボットなどが候補として今までも挙げられてきました。しかしながらどのように活用するべきなのか？令和6年より公務員の定年の延長が順次実施され最終的には65歳まで定年が延長されます。一般の会社においては70歳まで働き続けられるようにすることが努力義務とされました。しかしながら今までの働き方では対応できなくなってきました。「24時間働けますか」という「マーシャル」が昔ありました。働き方改革が進められ、長時間勤務、連続勤務などは認められるべきものではありません。限ら

れた時間の中で成果を上げ、しかも楽しく働ける。それが理想ですが、世の中そんなに甘くありません。

働き方も変わりつつあります。皆が同じ働き方をする必要はない。一人ひとりに合った働き方があっていいのではないか。それが許される社会になっていくのでしょうか。

女性には男性にできない出産という役割があります。男女平等といってもこれは平等にはなりません。妊娠、出産に伴う身体、精神への負担もあります。制限も一部出てきます。このとき生じる負担をどのように分配し、誰がどのように公平に負担できるのか。社会で、職場で、家庭でそれぞれ解決するべきものがあります。出産は男性が負担することはできませんが、その人が行っていた仕事（家庭でも職場でも）を分担することはできます。出産後も同じです。子育ては女性だけが背負うものではなく、夫婦で、家庭で、社会で負担すべきものです。そのための公平な負担のあり方を一人ひとりが考えていけば、その先に解決できる方法が見えてくると思います。

